

外国語科目・生涯スポーツ科目の履修にあたって

<科目概要・履修のガイドライン>

- ・近畿大学の教養教育の目的と目標
- ・近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標
- ・英語履修案内、履修のガイドライン
- ・第二外国語教育の共通基本目標
- ・第二外国語について
- ・第二外国語履修フローチャート、履修ガイドライン
- ・近畿大学の「生涯スポーツ 1・2」について

近畿大学の教養教育の目的と目標

前文

近畿大学の建学の精神は、未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」にあり、教育の理念である「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育の目的としている。この建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するために、教育の中核に教養教育と専門教育を据え、それを通して総合的な教育を行うところに、本学の教育の特色がある。

さらに、近畿大学は、「世の中にないものを創り、生み出す」ことを社会的使命と任じ、新たな地平の開拓へ果敢に挑戦する人材を育成する。このような観点に立脚し、近畿大学の教養教育の目的を次のように謳うものである。

目的

「近畿大学の教養教育は、幅広い知識と深い洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立することを目的とする」

この目的の達成のために以下の目標をおく。

1. 個人の自由と平等を尊重し、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養う。
2. 日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。
3. 課題設定と問題解決の能力を高め、課題に積極的に挑戦する意欲を養う。
4. 健康な精神と肉体を培うとともに、趣味の涵養を通して豊かな人間性を養う。
5. 国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養う。
6. 総合的な視野から専門分野を理解し、その研究に必要な基礎知識を養う。

科目群は、上記目標に対応させて以下のとおりとする。

- ① 人間性・社会性科目群（個人の尊重・社会的責任の認識）
- ② 地域性・国際性科目群（国際的感覚の育成）
- ③ 課題設定・問題解決科目群（課題設定・解決能力の育成）
- ④ スポーツ・表現活動科目群（スポーツ・表現活動を通じた人間性の育成）
- ⑤ 外国語科目群（外国語によるコミュニケーション能力の育成）
- ⑥ 専門基礎科目群

近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標

—経済学部英語教育理念—

国際化・情報化が高度に発展した現代社会において、国際共通語としての英語の果たす役割はますます大きくなってきている。それに伴い、聞く・話すといった口頭でのコミュニケーションはもちろん、オンラインなどで文章を読む・書くという機会が増すことは間違いない。21世紀のグローバル社会において、国際共通語としての英語を使いこなせるようになるためには、世界の多様な文化を理解し、広く普遍的な視野を持ち、真の実践的コミュニケーション能力を高めることが必要である。経済学部では、このような視点から、学生がグローバル社会で活躍できるような英語力を身につけることを目指す。

目 的

近畿大学の外国語教育は、国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養うことを目的とする。

共通目標

上記の目的を達成するために英語と第二外国語それぞれの全学共通の基本目標をおく。

TOEIC TOEFL

TOEIC

		1 1	
			L
			L M H
			L M H
			L M H
			M H
			HS
			HS
			HS

TOEIC

TOEIC
TOEIC

TOEIC

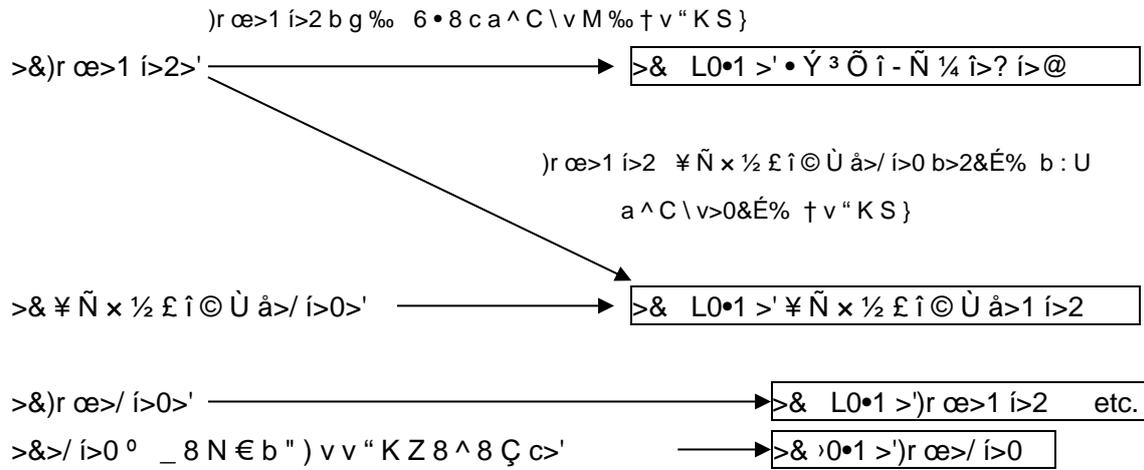
TOEIC

TOEIC

TOEIC

TOEIC
TOEIC

H G%oH °



í • Ý³ Ö î - Ñ ¼ î? c S †&É% >@ c †&É% >? í>@ c M0•1 †)E)F K
Z š Ÿ\$í6 M • G \
í G € } b&É% c²N>0° \ L0•1 [š Ÿ M • G \

” § ¥ \1 š Ÿ b ž – » Ů – á

>(š Ÿ | f*... c W0° b š Ÿ ² ó † 6 S K Z 8 •*... _7H•

&É% i		š Ÿ ² ó
» – ¶1 Ç Ů á «1 p\1 8Q\1)r œ>/ í>0	M0•1 † >/ í>0)E)F K Z š Ÿ \$ ĭ6 M• G \ š Ÿ M•0•1 _> 8 Z _)r œ>/ † š Ÿ O N _ Q € R € b)r œ>0 † š Ÿ M• G \ c [A ^ 8
» – ¶1 Ç Ů á «1 p\1 8Q\1)r œ>1 í>2	M0•1 † >1 í>2)E)F K Z š Ÿ \$ ĭ6 M• G \ S ° r [_ M0•1 b)r œ>/ í>0 b : U a ^ C \ v M % b ") † v “ K Z 8 • G \ † ² ó \ M•
» – ¶1 Ç Ů á «1 p\1 8Q\1	¥ Ñ × ½ £ î © Ů á >/ í>0	M0•1 † >/ í>0)E)F K Z š Ÿ \$ ĭ6 M• G \ S ° r [_ M0•1 b)r œ>/ í>0 b : U a ^ C \ v M % b ") † v “ K Z 8 • G \ † ² ó \ M•
» – ¶1 Ç Ů á «1 p\1 8Q\1	• Ý ³ Ō î - Ñ ¼ î A í B	M0•1 † A í B)E)F K Z š Ÿ \$ ĭ6 M• G \ S ° r [_ M0•1 b)r œ >1 í>2 b : U a ^ C \ v M % b ") † v “ K Z 8 • G \ † ² ó \ M•
» – ¶1 Ç Ů á «1 p\1 8Q\1	¥ Ñ × ½ £ î © Ů á >1 í>2	M0•1 † >1 í>2)E)F K Z š Ÿ \$ ĭ6 M• G \ S ° r [_ M0•1 b)r œ>1 í>2 ¥ Ñ × ½ £ î © Ů á >/ í>0 b : U a ^ C \ v >0 & É % b ") † v “ K Z 8 • G \ † ² ó \ M• > &) s œ f O c e f ^ 8 >'

" § ¥ \1 &É% >:&É% j í +0[><

>: » – ¶1 í Ç Û á «1 í p \1 í8Q \1)r œ>/ í>0><
>&1 ° 4E ¥&É% [2 ° ì š Ÿ j Û « v0¿ E •] >/c S ‡ >0 c † >& ö ¿&É% >& M0•1 †>/ í>0)E)F K Z š Ÿ M •>'

, K 8 ¥ \1 _ Ð €0v K s 6 L \$ x ^ ¥ Ñ x ½ £ î © Û á @ W € • | : _ M • e Ð
\$î8b ö •1 a V²# ' e S4 ^] *° A 0đ K 1 s i C \8 : Â Û á « b v € S0•
1 4 #Ý _ Y • ^ ö&O\$ x % ±1 ' †*f " M • 4 >/ G b 5

>: » – ¶1 í Ç Û á «1 í p \1 í8Q \1)r œ>1 í>2><
>&>0 ° 4E ¥&É% >1 c S ‡ >2 c † >& ö ¿&É% >&)r œ>/ 6 • 8 c>0 8 N € ?>/&É%
Ÿ " † > Ÿ ² ó \ M •>'

)r œ>/ í>0 [Û ‡ T % ±1 ' † v \ _ Q b0•1 b l } _ « Ò î ¬ ^4 #Ý @ [A • | : _ M
• š3Q\$ x 6 x 8/²# ' †° A v W Z +¬ ([v0• < • | : _) Ž *f M • 1 Æ ^ e' v †1 s G
^ K m (ì x (F " ^ e' v † i E • + Š v 8 ô : 4 >/ G b 5

>: » – ¶1 í Ç Û á «1 í p \1 í8Q \1 ¥ Ñ x ½ £ î © Û á >/ í>0><
>&>0 ° 4E ¥&É% >/c S ‡ >0 c † >& \$ Ž &É% >&)r œ>/ 6 • 8 c>0 8 N € ?>/&É%
Ÿ " † > Ÿ ² ó \ M •>'

0đ M \ *° C \8 : § X b 8 _5 || †*(C ¥ \ ' / œ [| C : 8 x ¥ -#Ö
q _ | C 6 • 8 ^] †#Ý 8 Z _ †° A v ~ +¬ (†²# ' M • % 2 †) Ž *f M • 4 >/
G b 5

>: » – ¶1 í Ç Û á «1 í p \1 í8Q \1 • Ý ³ Ö î - Ñ ¼ î A í B ><
>&>1 ° 4E ¥&É% A c S ‡ B c † >& \$ Ž &É% >'
>&)r œ>1 6 • 8 c>2 8 N € ?>/&É% Ÿ " † > Ÿ ² ó \ M •>'

G € r [_ Û ‡ [A S l r J r ^ % ±1 ' †4 #Ý K Z | ~6x 8 e' v b0Ž1 @ [A • | : _ M
• l } _ >0•1 j b e i _ P M • #.0Ž † Ý u • S u _ , *° x7§1 ^] , \ b # ' æ e i
_6ö M • " ^ M ! †#Ý 8 Z q , _ x % ±1 ' † ¾ p [A • Þ Ë Ý † % † _ M • 4 >/ G
b 5

>: » – ¶1 í Ç Û á «1 í p \1 í8Q \1 ¥ Ñ x ½ £ î © Û á >1 í>2><
>&>1 ° 4E ¥&É% >1 c S ‡ >2 c † >& \$ Ž &É% >&)r œ>1 í>2 ¥ Ñ x ½ £ î © Û á
>/ í>0 b>2&É% b : U 8 N € ?>0&É% Ÿ " † > Ÿ ² ó \ M •>'

z _ ¥ - 0đ p ° _ •8œ _ | •0•1 4 #Ý + Š b ö & O † ö B I O • | ~0ò (ý ^ ² # ' †°
A v W Z +¬ ([v G & _ 0 • < • | : _ •8œ) Ž *f K] ^ 8 [l] _ 0ò K 8 _ ° n
@ [A • | : _ M • 4 >/ G b 5 [¿ - , • È 1 n œ @ , \ M •

近畿大学の「生涯スポーツ1・2」について

本学にて開講される共通教養科目（スポーツ・表現活動科目群）のうち、「生涯スポーツ1」と「生涯スポーツ2」の概要を示します。以下をよく読み、履修してください。なお関連科目として、一部の学部で「健康とスポーツの科学」「心と体の健康」が開講されています。シラバスを参照してください。

「生涯スポーツ1」「生涯スポーツ2」（実習科目：1単位）

1. 教育のねらいと成績評価

1.1 教育目的

【人間力を磨き、心身の健康増進を図る KINDAI 生涯スポーツ】

近畿大学の「生涯スポーツ1・2」は、本学が掲げる「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」という教育理念を実現するため、その基礎となる身体を基盤とした多様なスポーツ・運動への高度な取り組みを通して、人間力^{a)}を磨くとともに、生活習慣病の予防や心身の健康^{b)}の維持・増進に関する確かな科学的・専門的な知識と技能を獲得することを目的とする。このような「生涯スポーツ」での学びを通じ、現代社会が直面する諸問題の解決に貢献できる人材、持続的な幸福感^{c)}を増大できる人材を育成する。

■キーワードの解説

a) 人間力

自らを律しつつ（意欲、忍耐力、成功を迫及する力等の自己制御的要素）、他者とともに協調しながら、他者を思いやる心や振る舞い（コミュニケーションスキル、リーダーシップ等の社会・対人関係的要素）や感動する心や専門的知識等を有することなどを言います。

b) 心身の健康

目標を持ちいきいきと生きている状態を指し、心の健康状態を含めた健康を言います。

c) 持続的な幸福感

以下の5つの側面【①「ポジティブ感情（幸福感や人生の満足感等の気持ちの良さ）」②「物事への積極的関わり（没我）」③「関係性（他者との良い関係）」④「人生の意味・意義（価値、有益性）」⑤「達成感（成功）」】を言います。いずれもスポーツ・運動との関わりが強いと考えられます。これらを持続的幸福とも言います。

■教育目的の解説

「生涯スポーツ」の学びについて

本科目は、近畿大学の教育の目的を達成するための基礎に位置づけられます。とくに本科目は、人間力を磨くことおよび健康の維持・増進に関する確かな科学的知識と技能を獲得することを目的としています。「生涯スポーツ」の学びを通じ、様々な状況で必要となる問題解決能力（他者のために役立つ力）が培われ、加えて持続的な幸福感（ずっと続く豊かな幸せ）を獲得するための知識や技能（自己を支えるために役立つ力）が養成されます。

「生涯スポーツ」の授業内容について

本科目の授業内容は、身体を基盤とした多様なスポーツ・運動の実践であるため様々な重要な価値があります。また、高等学校での保健体育授業を発展した学びであることから、高度な取り組みと捉えられます。

1.2 教育目標

【 KINDAI 生涯スポーツの4つの教育目標 】

1) スポーツや健康・体力に関する科学的理解

実践するスポーツや運動に関する科学的理解および生活習慣の予防や心身の健康の維持・増進に関わる健康関連体力について科学的に理解する能力を身に付けます。

2) 運動技能の習得

自らの運動技能や運動技能を向上させる方法を把握しながら、楽しく生涯にわたり取り組みを続けられるスポーツスキル、運動能力を身に付けます。

3) 仲間との協同的・支援的な関わりの強化

さまざまな考えを持つ仲間の存在を認識し、仲間と共に協同的・支援的にスポーツや運動を実践できる能力を身に付けます。

4) 自律的実践力の向上

運動技能を向上させるための挑戦的目標を設定し、困難な課題や状況に耐えながら、自律的、意欲的に乗り越えようとする能力を身に付けます。

1.3 学修形態・内容

1) 学修形態

上記の教育目的および教育目標を達成するため、「生涯スポーツ1」（春semester開講）では、基礎・応用的な学びに重点が置かれ、また「生涯スポーツ2」（秋semester開講）は応用・発展的な学びに重点が置かれ授業が展開されます。

2) 学修内容

「生涯スポーツ1・2」は、一つの時限に複数の担当者が、それぞれ異なったスポーツ・運動種目により授業を展開します。スポーツ種目とその学修内容については、各担当教員のシラバスを参照してください。

また、「生涯スポーツ1・2」とも、授業時に2回または3回にわたってフィットネスチェックを実施します。フィットネスチェックとは、各自の健康状態に関わる心身状態（日常生活における心身の健康に関わるチェック、形態・体格）、体力・運動能力の測定です。フィットネスチェックでの測定結果は、受講生により入力と出力がなされ、測定結果を参照しレポートを作成します。

（注）教員免許状の取得を希望する場合、「生涯スポーツ1」「生涯スポーツ2」は必修科目です。

1.4 成績評価

成績評価は、前述の教育目標に対応する以下の4つの評価観点（各25点、計100点）の到達度によって行われます。

- ・スポーツや健康・体力に関する科学的理解度
- ・運動技能の習得度
- ・仲間との協同的・支援的な関わり度
- ・自律的実践度

2. 履修方法について

2.1 履修登録手続き

1) クラス分け（第1回目授業にて）

- (1) 受講生の各種目によるクラス分けは、記念会館において、「生涯スポーツ1」は4月の第1回目の授業、「生涯スポーツ2」は9月の第1回目の授業にて行います。
- (2) 受講希望者は、記念会館（奈良キャンパスは203教室）に集合すること。事前に「生涯スポーツ1・2」のシラバスを大学ホームページ（<https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/lifelong-sport/curriculum/#sp1>）より参照の上、各担当教員の説明を聞き、第1希望から第3希望までの希望するクラスを決定しておきます。
- (3) 各クラスには、円滑な授業運営と安全確保のために定員（20～40名）を設けています。
- (4) 各クラスにおいて希望者が多数の場合は各担当教員が抽選等を行います。

2) 受講許可証の発行

- (1) 受講クラス決定後、受講許可証を発行します。
- (2) 受講許可証は大切に保管してください。
- (3) 受講許可証をもとに各自で履修登録（web登録）を行います。曜日・時限・担当教員名を確認し、登録ミスがないよう細心の注意を払ってください。
- (4) 受講の許可なく履修登録をした学生の受講は認められません。

3) クラス分け（第1回目授業にて）を欠席した場合

- (1) 諸事情により第1回目授業を欠席した学生は、履修相談窓口にて受け付けます。受講クラスは、定員に達していないクラスからの選択になります。
- (2) 東大阪キャンパスの履修相談窓口は、以下の日程および場所で行います。奈良キャンパスは別途 UNIVERSAL PASSPORT（近大 UNIPA）および掲示板にて周知します。
期 日：授業開始日の翌日から履修登録期間最終日（ただし、土日祝は除く）
時 間：午前11時～午後5時（水曜日は午後3時まで）
場 所：生涯スポーツ担当教員控室
(注) 履修相談窓口の日程は変更することがあります。UNIVERSAL PASSPORT（近大 UNIPA）および掲示板を確認してください。
(注) 履修相談窓口にて、受講クラスを決定し、受講許可証受領後、各自で履修登録（web登録）を行うこと。
- (3) 履修登録を間違えた場合、履修登録期間内に各自、修正してください。
- (4) 決定した受講クラスの変更は、特別な理由がない限り認められません。
- (5) 上記(1)～(4)の手続きを怠ると、各自でweb登録を行っても「受講許可証」は発行されないで、受講は認められません。

2.2 履修にあたっての注意

- 1) 授業場所は、大学HP内の「時間割一覧およびシラバス」に記載しています。雨天など天候変化、グラウンド状態不良等の理由により、授業場所を変更することがあります。授業場所変更については、授業前に、生涯スポーツ用の掲示板、記念会館ロビーの掲示板（奈良キャンパスは各学科の掲示板）に掲示されますので、事前に確認をしてください。
- 2) 実技・実習等の服装はトレーニングウェア及び運動靴を使用すること。授業に適した服装でない場合、原則として見学とします。眼鏡、時計、指輪、携帯電話など、破損しやすい物は、危険防止の見地からも、授業中できる限り携帯しないでください。万一破損があっても保障することはできません。外傷などの身体的事故についての注意、万一の場合の処置については「履修上の安全対策」の項を熟読すること。

- 3) 屋内での授業には、必ず館内シューズを持参すること（KEEP で使用する館内シューズは担当教員の指示に従う）。また、グラウンド、テニスコートおよび人工芝グラウンドでは担当教員が認めた運動靴を使用してください。
- 4) 各クラスの更衣場所については、担当教員の指示に従ってください。
- 5) 授業に関する不明点は、生涯スポーツ担当教員控室（奈良キャンパスは担当教員）に問い合わせてください。
- 6) 貴重品の管理は、各担当教員の指示に従ってください。
- 7) 実技科目である特性上、欠席日数が4回以上もしくは、それに相応する遅刻等がある場合は「不可」とします。
- 8) 再試験は、原則、実施しない。ただし、事情等を勘案し実施する場合、対象となるのは、欠席回数が4回未満の者とします。

2.3 履修上の安全対策

実習科目における安全管理は、日常生活の自己管理からです。自己管理されたリズムある日常生活は、最優先されるべき実技・実習上の安全対策です。

しかし、実習中には、避けることのできない不可効力的な事故も発生します。多くのケースは、もう少し注意しておけば、あるいはもう少し準備・配慮しておけばといったことがしばしば見受けられます。不摂生な生活、睡眠不足などによる注意不足・散漫などが起因である場合が多いです。事故は、自分だけでなく他の受講生に対しても多大な迷惑をかけることとなります。

日常生活の中での自己管理も踏まえ、実習の際に以下の事に注意してください。

1) 自己管理について

- (1) 暴飲、暴食をしない
- (2) 十分な睡眠を取る
- (3) 朝食を摂る
- (4) 規則正しい生活を送る

2) 用具について

- (1) 使用用具の取り扱いは、担当教員の指示に従うこと
- (2) 各種目の用具の特殊性を熟知し、慎重に取り扱うこと

3) 活動中について

- (1) 担当教員の指導上の注意、助言を厳守すること
- (2) 各種目のルール、マナーを厳守すること
- (3) 感情的にならないこと
- (4) 心身の不調をきたした場合、すぐに担当教員に申し出ること

4) 事故の処置について

実習中に万一外傷、その他授業が継続できないような事故が発生した場合、以下のような要領で処置をします。

- (1) 事故発生時
担当教員に申し出て指示を受けること。原則として次のように処置をします。東大阪キャンパスではメディカルサポートセンター（11月ホール3階）、奈良キャンパスでは医務室で処置を受ける。
- (2) 学外の医療機関で治療した場合
学生部学生課に届け出ること。その際、大学で扱う医療費給付制度等を確認すること。

参考：近畿大学学園学生健保共済会ホームページ(<http://www.kindai-wellness.jp/>)
近畿大学学園学生健保共済会発行「WELLNESSガイドブック」

3. 履修にあたってのよくある Q&A

「生涯スポーツ 1・2」の履修時に、様々な質問が寄せられます。以下の‘履修にあたってのよくある Q&A’を参考のうえ、履修してください。

<履修手続きについて>

Q: 「生涯スポーツ 1」を履修していませんが、「生涯スポーツ 2」を履修できますか？

A: 「生涯スポーツ 2」だけでも、問題なく履修することができます。

Q: 1 回目の授業はガイダンスとクラス分けですが、どの曜日・時限でも受講できますか？

A: 所属する学科の時間割以外の曜日・時限では履修できません。自分の所属する学科の配当された時間割の中から受講希望の曜日・時限を必ず決めてください。

<授業について>

Q: 当日の朝、晴れるか雨になるか、天気ははっきりしない場合、どうしたら良いですか？

A: 朝は晴れていても、その後、降雨や降雪等となることもあります。このような場合は、晴天時と雨天時の両方の用意をしてください。

Q: スポーツウェアやスポーツシューズを忘れた場合、どうしたら良いですか？

A: スポーツウェアを着用しない運動は危険が伴い、衛生面からも問題があります。そのため、スポーツウェアやスポーツシューズを忘れた場合、原則として見学とします。授業前に担当教員に申し出てください。

Q: 授業を一緒に受ける友だちがいません。授業中の活動に支障がありますか？

A: 複数の学部学科の学生と一緒に授業を受けます。新たな友だちと一緒に活動することも授業のメリットの 1 つです (他にもメリットは多くあります)。奈良キャンパスでは単一学科での開講です。

Q: ラケットやグローブ等のスポーツ用具を持っていない場合、どうしたら良いですか？

A: 必要なスポーツ用具は大学に備え、授業で使用できますので、安心して履修してください。

<成績評価について>

Q: 何回の欠席で単位を取ることができなくなりますか？

A: 4 回以上の授業を欠席すると単位認定はできません。

Q: スポーツ経験が無い場合は、単位の取得が難しいですか？

A: 未経験者であっても単位の取得は可能です。2 ページに掲載の教育目標と成績評価の箇所を参照してください。

Q: 卓球の全国大会に出場した経験があります。秀評価 (90 点以上) をもらえますか？

A: 運動技能の習得状況のみで秀評価にはなりません。成績評価は、4 つの評価観点に則って行います。2 ページに掲載の教育目標と成績評価の箇所を参照してください。